

特定非営利活動法人びーのびーの 2023年度事業報告書 2023年4月1日～2024年3月31日

2020年度に定めた3年間で達成すべき「びーのびーの中期計画『2歩先へ!』」で打ち立てた3本柱の目指すべき姿に向けて全事業上げて注力してきた2年目だった。1本目の柱として妊娠期からの切れ目ない支援で、産前から新しい家族を迎入れるための具体的なイメージが付きやすい形として、どろっぶおよびどろっぶサテライトにおいては港北区と協働し、年間60回の土曜日および夜間オンラインを活用した両親教室を開催してきた。菊名ひろばも区内5ヶ所のつどいの広場と連携して参画。3ヶ所の地域ケアプラザ（地域包括支援センター）での開催を進めてきた。そして今年度は過去3年間の休眠預金助成事業の成果をもとに赤い羽根福祉基金の助成受託の初年度として、区内2ヶ所の1軒家においてそれぞれ平均3～5家庭に昼食付でくつろいでもらえる居場所づくりを「産前産後のおうち」事業として実践してきた。

法人が取り組む産前産後ヘルパー派遣事業や子育てサポートシステム、一時預かり事業など公的支援を活用できるための情報提供や、いざという時に助けてくれる地域の支援者との繋がりをつくるための活動もある。この2ヶ所の居場所を担う新スタッフとの理念の共有や地域資源との連携づくり等、まさに医療モデルから生活モデルへの緩やかな転換を地域で応援する社会システムづくりでもあった。

2本目の柱は、主にどろっぶとどろっぶサテライトで行ってきた、ひとり親支援として新型コロナウイルスの影響下で個別家庭への配食活動に切り替えて3年間取り組んできた活動を、相互交流しながら孤食を防ぐための夕食の会として戻すことができた。区役所における児童扶養手当支給時の広報から希望が挙がった家庭や、利用者から繋がった家庭、約70家庭に必要とされる物資を配り続けてきた。今期はNTTドコモ助成金事業を受け、冷凍食品が貯蔵できる冷蔵庫や誰でもいつでも必要なものが選択、持参できる保管庫の購入、また学童期の実状把握のためのスクールソーシャルワーカーや生徒指導専任およびひとり親家庭支援を行う専門職とのネットワークを構築することができた。そして次年度に向けては、法人が持つ常設型拠点3ヶ所と計5ヶ所の居場所で開催できる布石が打てた。

中期計画最後の柱として学校教育との連携が求められる福祉と教育を繋ぐ目標については、主に学生と乳幼児そして子育て家庭との交流事業の推進である。これまでも区内の小中学校そして近隣区の高校含めて受入れおよび家庭側を学校に派遣する機会を創っている。この活動は横浜市における「子ども子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」の15年前から3回に渡る調査結果において第1子を持つ家庭の約75%が「子どもの世話の経験がない」中で子育てに突入しているということからも必要な体験として位置づけている。地元の学生と子育て支援の現場との接点づくりには町内会、PTA、民生員児童員協議会など町ぐるみで応援する輪が広がることも大事な活動である。学生インターン生によるボランティア募集のためのインスタグラムも自主的な提案によって作成されたことも成果の1つである。

1. 子育て支援施設の運営及び一時預かり事業

①「おやこの広場びーのびーの(菊名ひろば)」(横浜市委託事業 親と子のつどいの広場事業)

(1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北1-2-18
	月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 毎月第2、3土曜 9:30～15:30 (マタニティソートイング開催日は13:00開館)
④ 従業員数	9名
⑤ 事業概要	・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・産前から産後への切れ目のない支援 ・子育てに関する相談の実施 ・地域子育て関連情報の収集及び提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・一時預かりの実施
⑥ 利用者数	年間利用者数 5,848名 1日平均 22.7名

(2) 報告

1) ひろば利用の様子

午前午後での利用が定着しているが、お昼の人数制限をやめたことでお昼を利用する親子が増え、一日通しての利用も増えた。月2回土曜ひろばを開催したことで平日利用できない親子利用が増えた。

2) 利用者とともにイベントの実施

月1回のフリーミーティングでは、親子ボランティア中心に利用者と一緒に、バザー出店用の手芸作品や季節の工作、イベント、文集づくりについて話し合い、無理なく楽しめる活動をおこなった。

3) 座談会と講座の開催

誰もが気軽に参加でき、日ごろの子育てについての悩みや、自分、家族について語り合える時間を定期プログラム以外に座談会や講座も開催した。土曜ひろばではミニプログラムを17回開催。

4) 産前から産後への切れ目ない支援の実施

区の妊娠期事業として継続しているマタニティソートイングを年6回実施。地域子育て支援拠点や地域ケアプラザでの両親教室に4回参加し頼れる制度や地域のひろばを紹介した。地域のサロンや赤ちゃん会などにも出向き広報をおこない、顔を繋ぐことで産後のひろば利用に繋がった。

5) 利用者と地域を結ぶ

地域子育て支援拠点どろっぴがおこなっている「新横浜地区出張ひろばりぼん」に赴き、近隣の子育て情報を紹介し地域につないだ。また、新横浜地区の子育て支援関係者との交流もおこなった。地域の子どもたちに声をかけ春のバザーではお手伝い、秋のバザーは子ども企画をおこなった。ひろばスタンプラリー(挨拶やちょこっとお手伝いをするすると1スタンプ)を年間通して実施。地域福祉交流スペース COCO したのはらの歌のプログラムにオンラインで参加し、高齢者とひろば親子が歌を通して交流をおこなった。

6) みんなで見守る一時預かり

ひろば利用時の親子の様子を共有し、密に連携することで安心した預かり、みんなで見守れる温かい雰囲気

気づくりができた。年間登録料を 600 円としたことで年度後半からでも利用する家庭が増えた。

②港北区地域子育て支援拠点どろっぴ (港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1)基本データ

	どろっぴ	どろっぴサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜～土曜 9:30～16:00 (隔月日曜開館あり)	
④ 従業員数	29名	20名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・子育てに関する相談の実施 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・利用者支援事業(一時預かり事業) ・横浜子育てサポートシステム(以下:子サポ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・産前から産後への切れ目のない支援 ・地域子育て関連情報の収集及び提供 ・ネットワーク ・人材育成
⑥ 利用者数	32,659 名	32,220 名

(2)報告

1) 利用の入り口の可能性を拡げる担い手への循環

乳幼児期にひろばを利用してきていた家庭が就園、就学後にもボランティアとしてひろば環境を整えてくれたり、ひろばサポーター(男性を含む)として父親の座談会実施や遊びの見守りなど活躍する場を創出することで、子どもの遊びの幅が広がったり、親にとっても頼れる存在ともなり居心地の良さに繋がった。

2) 日常の場から切り離されない支援

専門職との連携を強化することで、日常の場で利用者ニーズに即時的に対応する体制を構築することができた(助産師、歯科衛生士、ハローワーク港北マザーズコーナー、横浜市リハビリテーションセンターなど)。

3) システム DX に向けた現場の声の反映

システム DX では、子サポや利用登録等がシステム化されることに伴い、選定代表区として18区の状況確認や意見集約などを行うことで、円滑な移行に向けて市と協働のもと尽力した。

4) 新横浜地区での多様な主体による出張ひろば事業の理念の共有

新横浜地区では、出張ひろば事業の展開により、多様な主体とのネットワーク会議を立上げ、実施した。親子の孤立感を共有し、保育園を含む施設間で連携することで、出張ひろば事業が情報発信としての機能を高めていくとともに、地区全体で親子を受け入れていく意義を共有し一体的に実施することができた。

5) 学生のボランティア活動を豊かにする丁寧な繋ぎ

夏の学生活動の場(ボラリーグ事業)では、参加した学生延べ73名を受入60団体にコーディネートすることができた。特に保育関係への就職を希望する学生を保育園に繋げ、受入態勢を共有することができた。

6) 子サポの制度改変による会員にとっての利便性の向上

7月の制度改変により、通常の入会説明会に加え無料クーポン券配布対象者向けの説明会を行うことで、産後の休息やきょうだいの送迎、産後うつや集団の場に交わることが難しい家庭等に向けても利用促進に繋がった。また、拡大版予定者研修会に参加した140名のうち20名が提供会員向け研修に継続参加した。

7) 夕食を囲む会の再開による自主事業の拡充

ひとり親家庭向けの支援としては、配食事業(シェアねっと)に加え、推進拡充のためのネットワーク会議を発足し、関係機関、地域関係者等との情報共有の場を持つことができた。親子の現状理解が深まるとともに、夕食を囲む会では、地区社協の協力のもと実施することができた。

8) 拠点がもつ活動の多機能性を活かした一体的、かつ継続的な一時預かりの実施

利用枠以上のニーズがあるため、予約・利用時の対応に留めず、状況に応じて子サポや乳幼児一時預かり事業等の情報提供や仲介を行った。利用登録に繋がった家庭の背景、予約・利用状況から、子育てパート

ナー等と拠点内連携をしながら、継続的な見守りを行った。

2. 子育て支援に関する事業

①産前産後ヘルパー派遣事業

横浜市委託事業

(1)基本データ

① 対象	横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 (1) 妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 (2) 出産後5か月(多胎児の場合は出産後1年)未満で、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 ※自主事業に限り、概ね1歳まで利用可能
② 実施場所	主に利用者の自宅(利用者の外出付き添い・買い物は可能)
③ 業務時間	市事業 : 月曜～金曜 9:00～17:00(12/29～1/3・祝日は除く) 自主事業: 月曜～日曜 9:00～19:00(12/29～1/3・祝日は除く)
④ 従業員数	4 名(ヘルパー57名)
⑤ 事業概要	対象世帯に対して、登録の家事・育児ヘルパーを派遣する。 横浜市委託事業の他、自主事業も行う。
⑥ 利用者数	利用回数 1105件(うち自主事業分 69件)

(2)報告

1) HP・SNS・紙媒体の配布や掲示・関係機関での紹介など多様な方法を使い、利用の周知を実施した。

→HP からの申し込みも増加。SNS で知った方、関係機関の紹介などで申し込みに至った方も多数いた。今年度は神奈川区の拠点スタッフにヘルパー活動内容の説明会を実施した結果、神奈川区からの登録者が増えた。

2) コーディネートの効率化と個人情報保護の安全性両面からよりよいツールを検討。

→LINE オープンチャットを使った依頼内容別ヘルパー募集をスタートし、定着した。コーディネーターからの依頼だけではなく、ヘルパーから都合を知らせてくれることで効率的にコーディネートが可能となった。LINE 応募のあとはメールでやり取りをしたことで、個人情報も守りつつ実施できた。できた時間を利用者への寄り添いやヘルパー研修準備にも活用した

3) コーディネーターは研修を受講しスキルアップにトライした。

→外国につながる家庭との関りに関する研修・保育に関する研修・地域 remix 内の中堅者研修などを通し、子育て家庭の最新の状況を学び、コーディネートや日々の運営のスキルアップにつながった。

4) ヘルパー向け研修はオリエンテーション・研修を2回実施。

→秋は「調理研修」。講義形式ではなく、普段の調理活動をヘルパー同士協力してその場で調理しあうことで、ヘルパー間の情報交換やスキルアップにつながり、ヘルパー活動の重要性を気づき合う機会となった。冬は企業の管理栄養士の講師を招いた講座で、調乳・栄養バランスについての学びなおし・基礎的知識の再確認の機会となった。企業との連携も深まり、法人との新たな繋がりを築けた。

5) コーディネートのエリア拡大(鶴見・神奈川・都築・緑区)に伴い、近隣区の人材活用で、利用者のニーズに応えた。

→近隣区在住ヘルパーの大幅増員にはつながらなかったが、少しずつヘルパー全体の活動範囲が広がった。港北区を中心に、法人関係者や他区でもヘルパーが見つからず困っている方に事業を提供することができた。

②産前産後の子育て家庭を支えるための

地域版セーフティネット創出のための活動

(赤い羽根共同福祉基金助成事業)

(1)基本データ

① 対象	妊娠期～産後間もない家庭
② 実施場所	主に区内2ヶ所(産院付き専用户建て・空き家の戸建て)
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:00(活動によっては夜間もあり)
④ 従業員数	5名程度(助産師など専門職の関わりもあり)
⑤ 事業概要	・出産期前後(妊娠中～1歳未満)の家庭が一日滞在できる場所の運営 ・事業に関わる人材の育成 ・事業モデルに向けて周知・運営ノウハウ伝達 ・移動支援の導入に向けた勉強会可能
⑥ 利用者数	343名

(2)報告

利用者

→2023年7月から2024年3月までの8か月程度で343組の利用。

・拠点

→区内2か所でそれぞれ開催。地域・場所(産院併設か民家か)・広さ・アクセスなどの違いがあったが、それぞれ利用者が適した場所を利用者自身が見つけて利用していた

・利用回数

→初めて利用する方・リピーターが1:2くらいの割合。年度終わりにはほとんどがリピーターの利用。

・ネットで予約・決済

→「だれもが利用しやすい」との声があがった

・時間帯・規模感

→小規模(最大5組)・長時間(10～15時)の利用であることで、利用者同士の親密な関係ができ、「普段話せないことを大人同士で話せてリフレッシュした」との意見あり

・専門職のサポート

→助産師・保健師の専門職の巡回があり、利用者から発達相談・母乳やミルクの相談などに応えた。両親教室やひろばでは話せないことも話すことができたとのこと。

・視察

→2024年2月には現場スタッフとともに佐賀の産後ケア施設を視察。スタッフの心構え・運営状況などを学んだ

・周知広報

→口コミでの利用も増え、「産前産後期には『おうち』を利用するといい」というカルチャーもできつつあった

3.子育てに関する地域の情報発信

(1)基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山10 横浜市港北区大倉山2-7-48 シャトレ大倉山西館201
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	17名(うち 謝金活動者48名)
⑤ 事業概要	・子育て情報の編集、制作、発信 ・情報発信制作物の管理 ・上記に関わる一切の活動

(2)報告

1)出版・制作・企画事業(主に地域remix創発グループ)

(ア)「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」の制作・販売

24号では、書店内やCOCOひよし前での即売会を実施し、発売記念企画として『園探しセミナー』を開催。即売会参加者がココマップ編集メンバーとなったり、園探しセミナー参加者が園活セミナーにも参加してくれたり、利用者に直接思いを届けることの重要性を改めて実感した。

また、横浜市がスタートさせた園探しサイト『えんさがしサポート★よこはま保育』を受け、今後のガイドの在り方を検討し紙面変更に踏み切った。制作体制も今までのサポーターの中から3人にコアサポーターとなってもらい、コアサポーターを中心に制作を行っている。試行錯誤しながら新たなガイドの形を模索中。

(イ)制作・企画

・港北区子育て応援マップ紙版ココマップの制作、港北区子育て応援サイト「ココマップ」の編集・制作・運営(横浜市港北区社会福祉協議会協働事業) 編集メンバーの交代サイクルは早くなっているものの、切れ目なく参加者希望者がいる状況。

・新規事業や各事業での料金改定に伴う HP の改修や、お知らせバナーの新設で見やすい HP づくりを目指した。

・トレッサ横浜での年4回のイベントはいずれも盛況

(ウ)書籍販売

9月『園探しセミナー』会場にて大豆生田先生の著書を販売。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1)基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 横浜市港北区大倉山2-7-48 シャトレ大倉山西館201
③ 開催日時	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	17名
⑤ 事業概要	1) 事務局受託業務 子育て環境づくりのための各種任意団体・学会等の事務局委託業務(主に地域remix運営チーム) (ア)子どもと保育総合研究所事務局 (イ)子どもと家族支援研究センター事務局 (ウ)国際校庭園庭連合日本支部事務局 (エ)一般社団法人ラシク045事務局(オ)一般社団法人全国子育てタクシー協会事務局 (カ)NPO 法人ナルク東横浜 2) 制作・請負業務 3) 新規事業開発など自主財源獲得のための活動 4) ひとり親支援、フードパントリーなどどろっが自主活動支援

(2)報告

1)事務局受託業務

- ・各団体、組織、ネットワークの活動支援を事務的サポートを中心に行った。
- ・前年度に引き続き、事務局業務の効率化を行ない、団体運営がスムーズに行えるようサポートした。
- ・各団体のネットワークにより、関連団体・企業や自治体との関係性ができ、remix 業務の幅が広がった。

2)制作・請負業務

- ・幼稚園3園のパンフレット制作。
- ・初となる飲食店シヨップカードの制作を受注
- ・トレッサ横浜 HP 内ブログ「とれおんぱーく」は管理者の後任が決定。次年度より新体制でスタート。
- ・ハマハグはヘルパーやサポーターに協力してもらい3月上旬には20件達成。
- ・かながわコミュニティカレッジ講座運営受託

神奈川県民向けの子育て支援講座を4回シリーズで開催。27名が受講し、半数の受講者が引き続きの情報希望。

3)新規事業開発など自主財源獲得のための活動

- ・制作受注件数アップのため、PTA'S への登録による広報誌制作など新規開拓に着手。
- ・視察見学対応を一元化し、自主財源を確保するため視察管理サイト『Shisaly』を導入。
- ・レ・ジェイド新横浜地域開放集会室の運営を受注。2025年春の開業に向けて準備開始

5. 保育事業の運営

認可保育所 ちいさなたね保育園

(横浜市補助事業)

(1) 基本データ

① 対象	0歳から就学前
② 実施場所	横浜市港北区師岡町846-1
③ 開催日時	月曜～土曜 7時30分～18時30分
④ 従業員数	33名(正規職員 16名、非常勤職員 20名)
⑤ 事業概要	認可保育所
⑥ 園児数	61名

(2) 報告

1) 保育環境の研修や他の園への見学

= より高みを！ =

園内では夕方の保育「いけいけ GOGO」タイムの各部屋をコーナー(工作の部屋、なりきり遊びの部屋など)とする転換とコーナーの環境の見直しをした。

近隣のえみ保育園と各学年が交流し、zoom や、メールのやり取りで意見交換をした。

2) 保育士のスキルアップ

= 自己満足じゃ終わらない！ =

園内研修にて連続研修として「人権研修」を行う。他にも、「既成のキャラクターは保育の中で必要か？」などテーマを決めて話し合いをした。

今年度は小中大学の学生を多く受け入れ、学生から見た子どもの姿や、声掛け等を学び、保育を伝えることで自らも育った。

3) 社会人として育つ

= 柔軟な考えも持ってるんです =

4, 5歳児の子ども会議での園児の柔軟な考えや意外な視点等から大人の堅い考えを見直す事があった。

4) 保育リーダーとして育つ

= 先輩から学ぶ時代は終わった！ =

① ミドルリーダーの育成(中堅以上)

担当のペアを今までは先輩、後輩のような関係で組んでいたのを破壊したことにより、中堅保育士が自ら考え、チャレンジして保育を行っていた。行事の運営の中核を担う事も増え、卒園式などは臨機応変に誰にも指示されることなく円滑に運営する姿が多々みることができた。

5) ボランティア受け入れなど

= 柔らかいつながりを再開しよう =

養成校(玉川大学、関東学院大学)の保育実習生4名、玉川大学インターン生4名、樽町中学校職業体験の中学2年生を24名、中学3年生の家庭科の授業4コマ、ボラリーグの高校生2名、小学生ボランティア6名、と今までにないくらいの受け入れをした。

6) 他施設との交流

ニューバード獅子ヶ谷(特別養護老人ホーム)との案山子作り、お芋ほり、小規模多機能居宅介護なの花の地域連絡会への参加、えみ保育園との交流、スターチャイルド大倉山ナーサリーやなあな保育園との連携など他施設との交流も多岐に復活をしてきた。

6. 地域福祉・交流に関する事業

①地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(介護予防・日常生活支援総合事業)

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町1077
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:00
④ 従業員数	6名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型・見守り型の実施・食事を通じた交流づくり・日常的な多世代交流の場・学校に行きづらい子の居場所(SOWとの連携)・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース・地域連携及びネットワークの強化・一時預かり(子育てサポートシステムの利用場所)の場所としての機能強化
⑥ 利用者数	年間 約6,000名

(2)報告

1)日々の活動の周知強化&利用者増

SNS(Instagram)を積極的に利用し、日々のランチメニュー紹介、手づくり品を販売、のびのび会の様子等をアップし、利用者増を図った。

2)見守り対象者を増やす

篠原地域ケアプラザおよび近隣のケアプラザと連携し、要支援者を含む対象者を増やすことを試みた。例えば講座を開催し参加者から新規利用者に繋げる努力をした。

3)飲食部門の強化

親子向けメニューを始めるなどランチやカフェメニューを工夫し、新規利用者にアピールをした。

4)子育てサポートシステムを活用した一時預かりの受け入れ

地域の一時的に子どもを預けられる場所としての認知度が高まってきた。その場にいる皆が見守れる雰囲気づくりを強化し、ボランティアも子どもと交流できるよう配慮した。

5)レンタルスペースの問い合わせ対応・学校に行きづらい子の居場所づくり「SOW」さんとの連携

習いごとや懇親会の場を求めたレンタルスペースとしての活用などの問い合わせ対応が多く、認知度が高まってきた。毎週火曜日は定期的に SOW さんが居場所として活動してくれていることで学童期の子育て支援での課題を共有し、活動の視野が広がった。

6)庭の整備・活用

まち普請落選後も庭の整備を定期的に行い地域のガーデンコミュニティを形成中。

②子育て支援スペース COCOひよし

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで 主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区箕輪町2-7-60-1B(プラウドシティ日吉レジデンス I 地域貢献施設「まちのリビング」隣り)
③ 開催日時	月曜～金曜・日曜 10:00～14:00 2023年12月4日より 9:00～14:00 <横浜市親と子のつどいの広場事業> 日・月・水・金 <自主事業> 火・木 (グループ預かりまんまーる日吉)
④ 従業員数	9名(1名は助成金事業覚書契約)
⑤ 事業概要	・ 子育て支援スペース、親と子のつどいの広場の運営 ・ グループ預かりまんまーる日吉の実施 2023年4月～火・水・木 12月～火・木 ・ 一社)ACTO 日吉と連携したエリアマネジメント ・ イベントスペースの貸し出しを通じた地域活動支援
⑥ 利用者数	年間利用組数 3,976 組 1日平均 14.2 組

(2)報告

1)横浜市親と子のつどいの広場の申請・運営・親子キッズスペースの運営

- ・ 港北区の重点設置エリアに認定され、開設当初から利用をしていた利用者5名にメンバーとして加わってもらい、プレゼンを実施。12月に「横浜市親と子のつどいの広場」としてリスタートした。
- ・ 市域のAブロック研修、港北区子育てネットワーク「ぎゅっと」会議へ参加。「びーのびーの菊名ひろば」での実習も行った。また、地域子育て支援拠点どろっぷの「ひととき預かり」のスタッフとしても登録、活動をし、2025年度からの「ひろばでの一時預かり」を視野に入れての研鑽を積んでいる。
- ・ どろっぷの子育てサポートシステムと連携し、安心安全な預かりになるようにマニュアルを作成、説明会の開催、預かりの場所として定期的に利用するご家庭が増えたことで、利用会員、提供会員双方への可視化につながった。
- ・ 「おしゃべり会」を毎月1回開催。なかなか足を運びにくい方に向けてのプログラムとして機能し、新たな利用者の獲得につながった。
- ・ 月間カレンダーやSNS等を使った情報提供を行った。Instagram アカウント@cocohiyoshi 投稿数 947 フォロワー994
- ・ 月1回の「ミニバザー」の開催を通して、地域交流を促進し、収益活動にもつなげた。また「まちライブラリー」への寄付は約1400冊となり、小学生や保護者が足を運んだ。

2)グループ預かりまんまーる日吉

- ・ 低年齢での預かりニーズが寄せられ、1歳児クラスが稼働した。また、スポット的な「ときどき預かり」も継続し、柔軟な受け入れを行った。
- ・ 事故検証の過程で、研修を行い、グループ預かりにとって大切な視点や意義を再確認した。

3)イベントスペースとしての活用ニーズへの柔軟な対応

- ・ 学童期向けのニーズが多く、金・日以外は定期利用が入っている。希望する時間が閉館後～夕方に集中しているので、火・木は複数団体に貸すようにした。
- ・ 2023年7月より、法人会員獲得の為の区分変更、物価高騰を反映し、貸出料金の値上げを行った。

4)エリアマネジメント・地域関係

- ・ 2024年度のACTO 日吉業務の委託に向けて、コアパートナー会議に複数スタッフが参加するなど、各社との更なる関係性を深めた。

- ・「箕輪町会議」を3回開催し、参加メンバーと共に、地域課題の共有や情報交換を行った。
- ・「箕輪商工フェスタ」への参加を通して、地域で活動をする方へ COCO ひよしの周知を行った。

5) その他

- ・ YS 市庭コミュニティ財団助成事業「子どもたちの午後の居場所 GOGO ひよし」では学童期の子どもだけではなく、乳幼児子育て家庭の利用が多く「午後から夕方の居場所のニーズ」が把握できた。また、「ヒヨシティ」を母体としたネットワーク(キッズスマイル箕輪!)との連携企画も2回開催した。
- ・ 「ぶれじょぶ@in つるみ」の活動は定期的に行った。

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1)基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103
② 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
③ 従業員数	4 名
④ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の財務、労務管理 ・法人運営に関する一切の会議開催(理事会(年3回)、運営連絡会(毎月)、会計チェック(毎月)) ・学生インターン活動支援 ・法人内部研修開催 ・会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

(2)報告

1)安定した法人運営を行うための基盤強化

・ここ数年の検討事項だった勤怠システムを導入した。事務局の業務を細分化して担当を明確にし、それぞれが責任をもって業務に任れるような体制を検討した。理事の担当制を実施し、各事業への支援を依頼した。各事業で施設の補修などを行う機会が増え、契約の見直しを行った。

・就業規則の改訂

定年利用の改訂と事業継承に関する次世代育成への基盤整備を検討。全職員の周知を行った。

2)研修システムの体系化

新任職員研修や職員全体研修などについて予定通り開催することができた。これまで課題だった中堅者向けの研修や新任職員へのフォローアップ研修を行った。全体の研修プログラムは未着手。

3)学生インターンの活動

学生インターンと、社会人になった元インターンで、学生ボランティア向けInstagramを構築した。学生ボランティアの募集と管理が SNS で行われる。

4)会員管理と寄付キャンペーンの実施

例年通りの会員管理と、寄付キャンペーンを行った。25周年に向けて、法人のステークホルダーの掘り起こしと、新たな寄付の仕組みの検討が始まったところ。

5)情報発信

継続的な「note」への発信、HP の小さな改編は行った。Shisaly(見学受け入れシステム)や PTA'S (PTA 支援システム)など新しいシステムへの登録を行った。

6)次年度に向けた新規案件への対応

休眠預金終了後に赤い羽根福祉基金を受けることが決定し「産前産後のおうち」が本格的に始まった。

3年間の助成事業となっている。またドコモ市民活動団体助成事業の助成を受け一人親支援「シェアネット」の事業を拡大した。箕輪町でエリアマネジメントを展開しているACTO日吉の事務局支援の請負も2024年6月より決定した。

7)中期計画「2歩先へ！」の2年目の推進

3本の柱とマネジメント改革を含めた法人全体を にしつつそれぞれの進め方について相談しながら最終年度に向けた布石をつけた。